

所沢市立所沢中学校 学校だより

所中だより

令和6年9月2日 第6号

学校教育目標
「自立・共生・貢献」
・求めて学ぶ（自主性）
・共に生きる（人間性）
・力を尽くす（社会性）
校長 江原 勝美

【特色ある学校づくり宣言】 本校は、**さわやかな挨拶**・**心に響く合唱**・**地域に根ざす学校**を目指します。

〒359-1118 所沢市けやき台2-44-1 TEL 04-2922-4138(FAX:4139)
<http://www.tokorozawa-stm.ed.jp/tokorozawa-jh/k> E-mail tokorozawa-j@tokorozawa-stm.ed.jp

飛躍の2学期 相手を想い 仲間感謝 共に成長

41日間の夏休みが終わり、子供たちが学校へ戻ってきました。挨拶、笑顔、久しぶりの再会に手を振り合う姿、弾む会話、学校が一気に明るくなりました。学校は、子供がいないと寂しい場所なのだと感じました。

夏休みが始まってすぐに、1900年、1924年に続く3回目のパリオリンピックが開催され、日本選手の素晴らしい活躍に多くの元気や笑顔をもらいました。開会式は、あいにくの雨でしたが、ボートで入場するという初の試みでした。聖火を運ぶボートには、陸上のカールルイス選手、テニスのナダル選手、ウィリアムズ選手、体操のコマネチ選手など、往年のレジェンドたちの姿があり、その当時の活躍を思い出しました。

選手は、全力を出し切ること、無観客で行われた東京オリンピックからの3年間の集大成としてメダルや入賞を目指すことを目標に大会に臨み、柔道、体操、レスリング、フェンシングなどのメダルラッシュに日本中が沸きました。私もテレビの前で、金メダルをかけた戦いの集中力や緊張感を味わいながら、勝った瞬間は、深夜であることを忘れ「よっ！！」と声を上げて両手を叩いて喜びました。一方、歓喜に沸く中で、本来の力を発揮できなかった選手がとても気になりました。卓球混合ダブルスの初戦、男女の両エースとしてペアを組んだ張本・早田ペアが初戦で敗れた時の失望感。その後の戦いへの影響が心配されました。大会や試合には、ランキングや強さ以上に「流れ」があるとも言われます。試合に勝つには「失敗や流れに左右されない平常心が最も大切」と話す指導者も少なくありません。いわゆる心・技・体の心の部分です。

大会後のインタビューや取材で明かされた中で、私が印象に残った2つを紹介します。

一つは卓球男子。張本智和選手は、2018年の日本選手権で、10度目の優勝を狙う水谷選手を破り、世界最年少の14歳で優勝を果たしました。あれから6年。今大会は、日本のエースとして出場。打倒中国、金メダル獲得を目指していましたが、準決勝スウェーデン戦に敗れ、銅メダルをかけたフランス戦にも敗れ、メダル獲得は叶いませんでした。張本選手は、過去の大会で格下の選手との対戦中、大きくリードされた状況で「このまま負けてしまうかもしれない」と思ってしまった弱い自分がいた。そこがダメだった」とコメントしたことがあります。今大会も苦しい場面がたくさんありましたが、ピンチを乗り越えて逆転する場面もありました。今大会は、どんな状況でも「負けてしまうかも」と思う瞬間は無かったのではないかと私は感じています。その張本選手の大会後のコメントです。「今の自分は、去年よりも、3年前の自分よりも強いですけど、金メダルを取るには、もう少し強化できる部分があった。勝ち負けだけでは、自分がどれだけハードワークしてきたかを評価できません。そんな単純なことじゃないんです。僕には、まだやるべきことがあります。残念な選手もいれば、一方で喜びにあふれる選手もいる。僕が過去に破ってきた選手のことを想うと、僕が抱いているのと同じ感情を持っていただろうと実感しています。」このコメントを聞いて、張本選手は、これからもっともっと強くなっていくのだらうと思いました。

2つ目も卓球の話になります。女子卓球団体の表彰式後に、日本選手が4人で記念写真を撮っていたシーンです。団体戦の登録は、メンバーは3人とリザーブ選手の4人。表彰台には、試合に出場した選手が上がりま

す。通常は3人。メダルをもらえるのは3人。おめでとうと祝福を受けるのもこの3人です。今大会でリザーブを務めた木原選手は、試合に出場していないため、表彰台にも上がれませんしメダルももらえません。しかし、その木原選手が、記念写真の時に首にメダルをかけていました。その色は銀。他の3人の選手も全員メダルを首にしていました。早田選手が首にかけていたのは、自身が個人戦で獲得した銅メダル。表彰式直前に、コーチに頼んで自分のカバンの中から持ってきてもらったという話でした。その早田選手は、前東京大会のリザーブ選手。今大会では、リザーブとしてチームを支えてきた木原選手にメダルをかけてあげたかったと話していました。リザーブ選手は、メンバーの練習を支えなければなりません。練習相手はもちろん、準備・片付け・球拾いもします。さらに、万が一のことを想定して、いつでも出場できるように自分のコンディションをベストの状態にしておかなければなりません。リザーブ選手の大変さを知っている早田選手の心遣いでした。早田選手は、大会中に左腕も負傷し、その左腕のテーピングが日に日に大きくなっていきました。棄権を考えなくてはならないくらいの状況で、最後は痛み止めを打っての出場だったと。その早田選手を陰で支えていたのが木原選手。「大丈夫」「いける。いける。」と常に前向きな言葉で励ましていたという話です。木原選手のコメントにこうあります。「周りに、誰か一人でも笑顔の人がいたら、元気な気持ちになれるんじゃないかなと思って。」仲間のことを想う気持ち、その気持ちに答えて頑張る姿勢、その支えに感謝の気持ちを伝えることは、日本の力、日本の強み、日本の良さであり、これからも大切にしなければいけないことだと感じました。

「周りに一人でも笑顔の人がいたら、元気な気持ちになれる。」職員が笑顔で子どもたちに寄り添い、明るく元気に教育活動に当たってまいります。2学期もよろしく願いいたします。

所中生の活躍

○学校総合体育大会県大会 女子200m背泳ぎ <input type="text"/>	ONHK合唱コンクール 出場
○埼玉県中学生夏季水泳大会 水泳女子50m背泳ぎ <input type="text"/>	○第65回埼玉県吹奏楽コンクール地区大会 Bの部 <input type="text"/>
水泳女子100m背泳ぎ <input type="text"/>	○第65回埼玉県吹奏楽コンクール県大会 Bの部 <input type="text"/>
○学校総合体育大会関東大会 水泳女子200m背泳ぎ <input type="text"/>	○西武沿線ソフトボール大会コスモスカップ Aブロック <input type="text"/>
○令和6年度所沢市中学校夏季剣道大会 男子団体 <input type="text"/>	○第71回所沢市子ども写生大会 <input type="text"/>
○埼玉県合唱コンクール 混声合唱 <input type="text"/>	



夏休み中の職員研修

所沢小、明峰小との合同の研修会は、大学の先生を指導者に子ども主体の教育について研修しました。

救急救命講習では、実際にAEDを使って訓練を行いました。

この夏休み中、市内企業の寄付により、市内全校に2台目のAEDが設置されました。本校は、体育館外階段の下に設置されています。(1台は職員室入口に設置してあります。)

